

# ワケ カタチには理由がある(41)

## ～グラマン XF5F スカイロケット



[↓グラマン社の前作 F4F と]



本機はグラマンが作った米国海軍の試作戦闘機で、1940年に初飛行しています。主翼を挟み、その前縁から張り出すようにエンジンナセルが取り付けられ、また、主翼途中から後方に延びる胴体を持った、とてもユニークな形状を有していました。丸味を帯びてコロっとしたエンジンナセルと機首はとても愛嬌があり、双尾翼と相まって、不思議にまとまりの良い全体形状を有しています。特に、前方斜めから見上げると、エンジンナセルの迫力は大きなものがあります。前作 F4F ワイルドキャットと並べるとわかりますが双発機にしては小型の機体で、胴体を後ろに下げることでエンジンナセルを接近させ、2つのエンジンを有する単発機的(?)にするという設計思想が見て取れます。しかし、古今東西、双発機戦闘機は成功する例は少なく、この機体も御多分に漏れず、正式化されずに終わりました。グラマンはこの後、双発の F7F タイガーキャット戦闘機という大型艦上戦闘機を製作しましたので、その一里塚的な機体となったとも言えます。なお、本機はグラマンにしては珍しくネコ科の名称がついていません。本機の名称「スカイロケット」のロケット(rocket)は今でこそ噴進式エンジンのことを指しますが、別に「火矢」の意味があり、これに由来したものと思われま。

### 【模型について】

チェコの MPM 製 1/72 の簡易インジェクションキットで、互いにカウンター方向に回るプロペラもきちんと再現されていました。もっとも、このキットは 1/72 で一番新しいものとはいえ、20年以上前にリリースされた絶版キットであり、それこそヤフオクなどで探すしかありません。より手軽に作れるインジェクションキットのリリースが待たれるところです。(中川裕幸 2021年8月)